

基本方針

ケアハウスびえいは開設 18 年目を迎え、全国的に知名度の高い「丘の町びえい」の名に恥じず職員一同新たな気持ちで平成 29 年度の事業に邁進する為、以下の基本方針を作成いたします。

1. 経営基盤の安定

経営基盤の安定の為には、50 床満床を維持できるように現在入居されている皆様が健康で安心・満足して永く過ごされて頂けるような施設運営を行う。

平成 29 年度の計画・予算の執行について、経営効率のきめ細やかな向上に努めつつ、施設設備の老朽化による修繕費の積立を行えるようにする。

2. 適切な施設運営

利用者が自由で自立し、安心・安全な生活を送れるように適切な施設運営を行い、地域福祉向上にも貢献を目指します。

通院送迎など安心安全に乗り入れ出来る福祉車輛の配備を進めて行く。

3. 課題

介護度が高くなる中、入居者が安心して過ごして居られる為に、軽費老人ホームの特定施設化、多機能型居宅介護事業、認知症対応型老人共同生活援助事業、老人デイサービス事業、居宅介護事業、障害者福祉サービス事業実施に向けて努力する。

軽費老人ホームの特定化については、美瑛町から最大 9 名の枠でなら可能との事ではあるが 15 名の枠がないと此れらに関わる収支がマイナスになる可能性があるので引き続き施設・法人の体力強化が必要となる。

基本計画

1. 経営基盤の安定

ア. 計画的な予算の執行

4半期ごとの収支計画を立て、資産会計監査を実施し安定した財源の確保を目指す。

・第1四半期

利用者からの利用料にあわせ、支払計画を綿密に立てる。

・第2四半期

利用料、事務費補助により収支が安定してきつつあるが、施設行事の実施の上でも慎重さが必要であるが反面、利用者サービスの低下にならぬよう計画を図る。

第3四半期

暖房費の加算時期に入るため収入は増加するが、暖房費等の検証を十分に行い、財源を確保する。

第4四半期

利用者の増減による事務費補助の見直しを行い、償還財源である管理費の確保・全体予算のチェックを図り、明るい施設運営と環境作りを実践する。

イ. 未収金の解消

利用者の収入は年金が主である為、偶数月の支払いになりがちではあるが、恒常的に未収金を残している利用者もみられるため、契約に基づいた円滑な納入を指導する。

ウ. 事務の簡素化

金融機関自動振込に利用者の理解と協力を得て過半数以上の向上に努める。

2. 適切な施設運営

施設職員にあつては、各種の研修・会議に参加し知識と技術を学び取ることによって、施設での日常業務に役立て、共同生活者として入居者との厚いコミュニケーションをと

る事による大きな信頼の構築により、感動に満ちた施設創りを目指します。

ア. 身体的な自立

老化などにより生活の自立が低下してきつつある利用者に対して、心のケアと、介護保険制度、地域の福祉サービスを利用した生活のプランを策定する。

イ. 精神的な自立

利用者の個々の人間性を尊厳し、生活の中での選択肢を多くすることで自分の意志による自己決定を保障するとともに自立の高揚を構築する。

ウ. 経済的な自立

未収金の発生を防止するためにも、契約の趣旨の徹底を図る。
又、困窮者には対話を図り、必要に応じて行政手続き等の援助を行う。

エ. 教養娯楽の提供

利用者の生活がより豊に、さらに利用者相互の融和を高める為の施設内、外の行事を計画する。

オ. 地域ボランティアとの連携

社会福祉事業の役割・意義について自覚し、入居者に対するのみならず、地域全体の持つ老人福祉に関する諸問題について、関係機関・団体・組織等との連携を深め、問題意識のさらなる向上に努める。

3. 運営課題

平成 29 年度運営にあたり引き続き業務・施設管理運営状況等を厳正に実施し、理事会・評議会において適正に検討し策定を進めより一層の努力をして行く。